

12・4	12・9	12・6	12・4
12・11	12・10	12・8	12・11
詩絵手箱	銀製花盛器	銀製花瓶	日本銀行
1合	2個	3対	貞弘重進
代表 植木 万里	校歌碑建設会	馬政局総務課	通信省航空局総務課
製作 松沼 源吉	図案 金沢 庸治	石田英一	図案 清水 南山 鍛金 石田 英一
			六角紫水

⑥ 新規矩男の再起用

フランス語および西洋文学授業講師として昭和七年三月に起用された新規矩男(368頁参照)は同九年十二月十五日に学術研究のためアメリカ合衆国へ出発し、メトロポリタン美術館東洋部部長を同十一年十二月までつとめた。本校講師を同十年十二月に一旦解嘱されたが、同十二年四月に帰国したので、改めてフランス語授業を嘱託(文庫課兼務)された。そのため、講師富永惣一はフランス語担当から西洋彫刻史担当(無報酬)へと転じた。

⑦ 藤島武二の海外出張

藤島武二は外務省文化事業部の依頼、給費を受けて昭和十二年四月二十三日から約二十日間、満州国へ出張した。出張上申案には「豫テ満洲國ニ於ケル古美術調査ヲナサシメ度希望ノ處今般同國文教部主催ノ下ニ満洲國皇帝陛下ガ大詔ヲ喚發セラレ日滿ノ道義的共同点ヲ高調シ給ヒシヲ記念スルタメ訪日宣詔記念美術展覽會ヲ新京

ニ開催スルコト、ナリタル趣ニテ其ノ審査ヲ同教授ニ依頼シ来タリタルニ付右審査ヲ兼ネテ以テ上述ノ調査ヲナサシメントス」(昭和十二年職員関係書類^並)と記されている。このとき満州国が招聘したのは藤島と安井曾太郎、松林桂月の三名であった。

⑧ 津田信夫の海外出張

津田信夫は第十六回朝鮮美術展覽会の審査を依頼されたのを機に、昭和十二年五月二日から約三十七日間、朝鮮、満州、中華民国を旅行し、美術および美術工芸品の調査を行なった。

⑨ 田辺至の海外出張

田辺至は第十六回朝鮮美術展覽会の審査を依頼されたため、昭和十二年五月四日から十六日間、朝鮮京城へ出張した。

⑩ 和田三造の海外出張

和田三造は昭和十二年パリで開催の万国博覧会における工芸品の研究と欧米(イタリア、フランス、イギリス、アメリカ)各国主要都市における工芸界一般の趨勢を視察することを目的に同年六月中旬から十月にかけて欧米へ出張した。

⑪ 田辺孝次の海外出張

田辺孝次も和田三造と同様にパリ万国博覧会開催に際して欧州へ出張した。出張上申案には、